

埼玉大学経済学部同窓会

経和会会報

第6号

2003年5月26日発行

発行 埼玉大学経済学部同窓会
経和会会長 伊藤 正昭
編集 副会長 中野 恵永
さいたま市桜区下大久保255番地
TEL 048 858 3281

母校の現況について

会長 伊藤 正昭

一、群馬大学との統合問題について



去る三月五日の埼玉大学運営諮問会議における兵藤学長の報告では次の通りでありました。

平成十四年十月に「群馬大学教育学部を残す会」が設立され文部科学省に群馬大学前橋荒牧キャンパスに教育学部を存置するよう要請すると共に、二〇万人の署名を集めて群馬県知事に提出。

群馬大学長は埼玉大学と統合した場合には教育学部をさいたま市に移転することを群馬大学教育学部教授会に提案し、教育学部教授会は学長懇談会の裁定に委ねるとのことであったが、十一月に群馬県知事から群馬大学長に対し、教育学部キャンパスの移転については十分地元の見解に配慮して貰いたい旨の申入れがあったため、十一月七日に予定されていた統合協議会の開催をキャンセルしたい旨、埼玉大学長に申入れ、統合協議会は延期された。

十二月に「群馬大学教育学部を残す会」は群馬県議会に前橋キャンパスに教育学部を存置するよう請願を提出し、県議会は「趣旨採択」(どのように対応するかは県議会の判断による)として採択。

群馬大学長の希望により学長懇談会を十二月二十四日に再開したが、

その際群馬大学長から

「教育学部の置かれない前橋荒牧キャンパスに残すべき新学部については理系リベラアーツ学部とし、その内容を具体化し地元で説明しつつ進めることにしたい。」

また、工学部については桐生とさいたまに置くとして、それぞれの学部の内容を具体化するためのワーキング・グループを設置したい。しかし、前橋荒牧キャンパスに少なくとも教員養成機能を残すのでなければ地元の理解が得られない。」

旨の発言があった。しかし、教員養成機能を残すことについての内容は具体的ではなかった。

次回学長懇談会は三月十一日に予定しているが、次回には、新学部についての群馬大学サイドの案について討議することになると考えられるが、いずれにしても六月の概算要求提出までに統合の方向が決まらなければ来年に持ち越されることになる。しかしながら、平成十五年十二月をもって、群馬大学長の任期が満了退任

二、埼玉大学同窓会連合会について

埼玉大学の各学部同窓会の連合会設立については、経和会が提案し学長の肝入りもあって、昨年十二月に各学部同窓会から選出された各三名の委員が出席して埼玉大学第二会議室において「埼玉大学同窓会連合会設立準備委員会」が開催され、私が設立準備委員会委員長に選出され各学部同窓会委員の中から各一名の副委員長が選出されました。席上、各学部同窓会の現状が報告されたうえ

となり、再任はされず、埼玉大学長も平成十六年三月末で任期満了退任となるので本年十二月までにまとまるならば平成十六年の概算要求には間に合うかも知れないが、統合の具体化が遅れば、双方の学内から、統合はやめたらどうかとの意見が出る可能性もある。

以上の次第で、我々が統合反対運動をするまでもなく、群馬大学教育学部サイドの反対により統合は実現しない可能性もあり統合の危険は少し遠のいたと思われましたが、四月に入って開催された学長懇談会の後、突如として両学長が揃って記者会見し、平成十七年十月に統合することを目標として統合協議会を発足させると発表したと報じられました。

右の両学長の記者会見の趣旨がいかなるものかについては、今回の運営諮問会議において詳細が説明されるものと思われませんが、平成十七年十月に統合すると言う目標設定が事実であるとするならば一旦遠のいたと思われた統合問題は我々の知らない間に急転して統合実現に向けて一気に加速されようとしているのであって、まことに遺憾なことと言わなければなりません。

連合会設立については満場一致で可決され、連合会規約の草案を二月中に各委員に提示して検討してもらった上で、三月中に第二回委員会を開催して規約を成立させることを目標としました。

これに基づき、二月初めに規約の経和会案を経和会会長・副会長会議で取りまとめ、大学事務局案との調整を行い、草案として副委員長を通じて各学部同窓会に配付し、これに

対する各学部同窓会の意見が三月中旬までに出揃い、四月二十一日に設立準備委員会委員長・副委員長会議を開催し、多少の修正はありましたが大筋において経和会案に同意が得られましたので、成案として第二回設立準備委員会を五月中旬に開催して承認を得たうえ、各学部同窓会に配付し各学部同窓会の機関決定を経れば遅くとも経和会総会の開かれる本年七月には「同窓会連合会規約」として確定し、同時に「埼玉大学同窓

会連合会」が正式に発足することになります。一昨年の経和会総会において皆様のご賛同により経和会が提案し、推進して参りました同窓会連合会が、群馬大学との統合問題を目前にして実現することとなりましたことは、まことに喜ばしく、これも皆様のご協力と力強い応援の賜物と存じ、厚く感謝の意を表する次第であります。(平成十五年五月一日記)

平成15年度・経和会総会のご案内

一 日時

平成15年7月12日(土)

総会・講演会 13時(受付12時30分)
懇親会 15時30分~17時30分

二、場所

埼玉大学大久保キャンパス

さいたま市桜区下大久保255
TEL 048 (858) 3281

三 講演

「創造的マインドで都市を再生する」
埼玉大学助教授 後藤 和子

四 会費

5,000円
(経済学部学生は無料)

五 交通

JR京浜東北線「北浦和駅」またはJR埼京線「南与野駅」下車
バス埼玉大学行

六 出欠連絡

6月20日まで(同封ハガキにて)

経済学部長に就任して

経済学部教授 上井喜彦



昨年十一月十六日に経済学部長に就任しました上井喜彦です。このたび中野恵副会長から『会報』への寄稿依頼を受けました。そこで考えているところを少し自由に書かせていただきます。

国立大学は今、戦後最大と言つべき大改革を迫られています。二〇〇四年四月に国立大学の法人化移行を予定して、関連六法案が国会で審議されているのです。しかも、埼玉大学は群馬大学との再編・統合問題も抱えています。

群馬大学との再編・統合問題については、昨年の『会報』で箕輪徳治評議員が批判的に検討を加えていますが、その際箕輪評議員も述べていますが、今日の「大学改革」は二〇〇一年六月に発表された文部科学省の「大学（国立大学）の構造改革の方針」（遠山プラン）が起点になっています。法人化もそうです。

そこで国立大学法人化法案をみますと、学長への権限集中、評議会の権限の限定、経営協議会への学外委員の大幅な関与、文部科学大臣による中期目標の決定と中期計画認可、文部科学省の国立大学法人評価委員会の設置などが含まれています。それは、「学問の自由」と「大学の自治」を保障する制度的枠組みを著しく弱体化させるものと言わざるを得ません。大学から批判が出て当然です。しかし、私は、こういう「大学改革」が社会に受け入れられる面があ

る、という思いも禁じ得ないのです。「大学の自治」、「学問の自由」は、時の権力からの自由を確保するという面で貴重でした。が、事実としては、大学がそれを掲げることによって、社会から自らを遮断したほうが自立的で立派な研究・教育ができるのだ、という発想に傾いてしまったのではないかと。だから、社会に開かれた大学」と言われると弱い面があったのではないかと、考えるのです。

私がこう考えるようになったのは、一九九四年から九五年にかけてアメリカはミシガン州のデトロイトにあるウエイン州立大学に留学したことが契機になっています。私は二つの事実に驚きました。一つは、私を受け入れてくれたリーダー・スタディーズ・センターが行っている労働者教育です。私は「社会に開かれた大学」の在り方としてビジネス・スクールは知っていましたが、ふつうの労働者向けの教育を大学が担っていることに驚きました。もう一つは、この大学の生涯学習部が、社会人が大学教育にアクセスすることを困難にしていた障害を取り除くために、①ケーブルテレビをつかった通信教育、②受講者がいる地域への出張教育、③週末に学生を大学に集めて行う講義とディスカッション、という三種の教育方法を組み合わせ、千人以上の学生を集めていたことです。

こういう「社会に開かれた大学」像は私には新鮮でした。しかし、振り返ってみると、本学部も一九九〇年代にそういう方向に進んできたのでした。奥山忠信元学部長が昨年の『会報』に書いていますが、昨年四月、埼玉大学大学院経済科学研究科博士後期課程が念願かなって設置されました。これで本学部は、学部から大学院博士後期課程に至るまで社会人教育の場を備えることになった

のです。国民の教育を受ける権利に応えるためには、「大学は学びたいときに学ぶことのできる場でなければならぬ」のです。東京ステーションカレッジもその具体化でした。本学部が一九九八年に開設した社会動態資料センターも「社会に開かれた大学」の実践です。このセンターは NGO・NPO の膨大な資料を集め、それを一般市民にも公開し、マスコミに大きく報道されました。このセンターは二〇〇一年秋に二一世紀総合研究機構に移し、共生社会研究センターと名をかえて活動

しています。その他、本学部は毎年無料で市民向けの連続公開講座を行っています。また、昨秋から離職ホワイトカラーの訓練の委託を厚生労働省から受け、大学院レベルの訓練を実施して、成果も上げています。もちろん、本学部は一般学生の教育も怠って来たわけではありません。今年も新一年生からカリキュラム改革を実施に移しました。

高水準の研究を蓄積し、その成果を教育に活かし、社会に広く還元していく。そうすることによって、本学部は社会の支持を得、応援団を獲得し、もって、いかなる大学の危機にも生き残り、発展できるといえるでしょう。私はそういう思いで一緒に懸命努めますので、伊藤正昭会長はじめ経和会の皆様には、貝山道博前学部長時代同様、本学部へのご支援ご協力を賜りたいと存じます。

母校の就職相談室で相談員を務めて4年になります。火曜日が内藤副会長、金曜日が私で、午後1時30分から5時30分まで8月を除いて通年学生達の就職相談に当たっています。前にも一度会報にレポートを載せましたが、再度就職難の現状を報告して同窓生諸兄のご協力を仰ぎたいと思います。

失業者の数が36万人とか、有効求人倍率が0.6を割込むとかマクロな数字を見聞きするだけではやや実感に乏しいのですが、就職活動の最前線で学生諸君と向き合っていると、いかに厳しい状況であるかをひしひし

就職相談室から

副会長 中野恵永



と感じない訳にはいきません。まずは埼玉大学の平成13年度の就職状況（平成14年度は未集計）から見ていただきます。

下の表でお判りのとおり、全学部計男女計では何と70・3%の就職率つまり3割の人が職に就けずにいるということになってしまっています。就職活動の結果を報告しない学生の追跡調査が困難という事情があつて実質的にはもう少し高いのではな

いかと推測されますが、それらを勘案しても就職率が75%を超えることはなさそうです。経済学部昼間部の男女合計就職率は78・9%、就職者194名の内訳は民間企業115名、官公庁19名でした。就職率が最も低いのは教育学部で少子化現象で教員の採用数が減少していることが影響しています。教育学部卒509名中就職希望者は421名、この中から教員に採用されたのは78名にすぎないというのが実態です。臨時採用教員など待機者が100名以上いると思われ、これを含めても200

名に満たず、国立大学の合併問題の最大の焦点になっているのも頷けるところです。

「青田刈り」は相変らず

著しい就職難にもかかわらず、企業の採用試験はますます早くなり、就職協定が無くなったこともあつてまだ3年生のうちに「内定」を得るケースも珍しくありません。

就職難を意識して学生側の動きも早まっており、3年生の11月、12月には早くも就職活動を始める人も少なくありません。12月に採用試験へのエントリー受付を始める企業があるからで、青田刈りどころか苗刈りの様相です。実際に採用試験がピークとなるのは4月中旬で、ゴールデンウィーク明けにはほとんど内定が発表されます。5月末までにはほとんど内定が出揃い、5月になってから試験を実施するのは金融機関の一般職、6月になると公務員試験が始まるというのが、採用スケジュールの実態です。それでも9月、10月になってまだ内定がとれず、リクルートスーツ姿のまま一年近くを過す人も少なくありません。

大学生としてしっかりと勉強ができるのはせいぜい2年半ぐらいということでは日本の学生が学力において国際的に後れをとるのも当り前です。エントリー数50社、100社は普通就職試験に受験申込みをするのをエントリーと云い、現在はほとんどインターネットを利用します。郵送で所定の書類を提出するケースもありませんが、ごく僅かです。

エントリーしたからといって試験を受けられるとは限らず、とくに女子学生の場合、せいぜい20%程度しか企業からのレスポンスがありません。人気企業には1万人も2万人もの応募者がありますからすべてのエントリーに応えられないのは当然です。したがって学生が50社、100社にエントリーするのは常識というわけです。

半分は人生相談

エントリーシートの添削や、面接の指導、筆記試験や小論文の要点といった就職試験のノウハウについては相談が中心であることは云うまでもなく、採用実務を経験しているのが難かしいことではありません。非常に神経をつかうのは「進路」に関する相談。「大学院に行つて研究職の道へ進むか学部卒で就職か」「故郷へリターンするか東京に職を得るか」「親が病弱なので転勤したくないのだが」「内定がまだだが留年か卒業か」「内定先について親と意見の相違がある」「公務員か民間会社か」「一般職の給与で生活が成り立つか」などなど実際にこうした相談が多いのです。これはもう就職相談というよりは「人生相談」の分野です。人生の分岐点になってしまつても知らないことだけに、親になつたつもりで真剣にならざるを得ません。複数の内定を得た学生から、どの会社を選ぶかとの相談を受けることもよくあるケースで、この場合は保険業界で全業種の企業と取引があつた経験がものを云います。

真面目すぎる埼玉大生 ほとんどのエントリーシートに、「自己分析」という項目があります。また、「学生時代とくに力を入れたこと」や「長所・短所」「志望動機」といったことを書かせられます。エントリーシートを添削している

平成13年度卒業者の就職状況

学部 (学科)	卒業生数		就職希望者		就職者数		就職率	
	男	女	男	女	男	女	男	女
経済部	62	32	49	24	39	22	79.6%	91.7%
経営部	89	28	77	24	60	16	77.9	66.7
社会環境設計	51	40	41	31	33	24	80.5	77.4
小計	202	100	167	79	132	62	79.0	78.5
経済学部	11	9	3		3		100.0	
経済(夜)	12	6	3		3		100.0	
経営(夜)	4	8		1	1			100.0
社環(夜)	27	23	6	1	6	1	100.0	100.0
小計	74	119	48	75	34	56	70.8	74.7
教養学部	173	336	141	280	59	161	41.8	57.5
教育学部	145	38	66	13	45	12	68.2	92.3
理学部	387	44	179	27	167	26	93.3	96.3
工学部	1,008	660	607	475	443	318	73.0	66.9
合計	1,668		1,082		761			70.3

経和会事業報告（平成14年度）

平成14年

- 5月8日 埼玉大学広報誌『樺』座談会 中野副会長出席
テーマ『大学生の就職事情と日本経済』
- 5月25日 経和会 会報第5号 発行
- 5月28日 経和会ホームページ開設最終打ち合わせ
(インフォテック社担当者・中野副会長・事務局平野さん出席)
- 6月19日 経済学部大学院「博士課程」開設祝賀会 KKRホテル
(会長・副会長・常務理事会メンバー出席)
- 6月20日 経和会理事会 総会準備など ニュートーキョー
- 7月13日 経和会 平成14年度総会 大学キャンパス
(講演 経済学部相澤教授「現代の国際金融と世界経済」)
- 10月9日 経和会 会長・副会長打ち合わせ 銀座伊藤事務所
(同窓会連合会対策打ち合わせなど)
- 10月11日 就職セミナー講演(学生部主催) 中野副会長
(テーマ「民間企業・公務員の採用動向と就職活動の要点」)
- 11月19日 経済学部インターンシップ報告会 会長・両副会長
- 12月4日 埼玉大学 同窓会連合会設立準備委員会
(各学部より3名の委員 経和会は会長・両副会長出席)
- 12月26日 新旧学部長を囲む会 北浦和にて
(経和会 会長・副会長・中村常務理事・小池専務理事)

平成15年

- 1月27日 埼玉大学同窓会連合会規約原案作成打ち合わせ
(伊藤事務所 会長・両副会長)
- 3月25日 埼玉大学卒業式・経済学部卒業パーティー
(会長・内藤副会長出席 大宮ソニックシティー)
- 3月26日 経和会 理事会 銀座ニュートーキョー 19名出席
(決算・会報編集方針・総会スケジュールなど)

と正直すぎる、真面目すぎるといった内容があまりにも多く、これでは書類選考でボツになって当然というケースが目立ちます。

「ウソも方便」「バレないウソならOK」というくらいに考えないと、とうてい世馴れた私立の学生には負けてしまいます。

筆記試験は通るけど面接が二苦手というのも埼玉大生の特徴です。

面接の失敗分析をしていると、面接官の軽口に真面目に反応して深みにハマッてしまったり、云わなくてもよい場面で自分のマイナスイメージを正直に披露してしまったりというケースが目立ちます。

真面目で正直なのは素晴らしいことですが、レースでありコンペティションである就職戦線では、割を喰う結果になってしまいます。

是非とも先輩の協力を

就職活動の大切な項目のひとつにOB・OG訪問というのがあります。就職の相談で先輩が訪ねてきたら、是非親切に対応してやって下さい。また求人情報がありましたら是非とも就職相談室にご一報下さい。

埼玉大生は即戦力としてはイマイチだが、基礎学力があり、真面目で「ハズレ」が少ないというのが定評です。とてもお買い得ですよ。

終身会費納入についてお願い

会長 伊藤 正昭

経和会の運営に係る財政基盤については、終身会費2万円を平成8年度入学者より入学時に納入していただき、徐々に充実しつつあります。会費は名簿印刷、会報発行、経済学部への各種支援など運営の資金として有効に活用しております。

しかし経和会は発足以来の歴史も浅く、また今後大学の統合、独立行政法人化、埼玉大学同窓会連合会の発足などを展望すると、まだまだ財政基盤は弱体であるといわざるを得ません。

については平成13年度以前に卒業された同窓生で会費未納となつて

いる方には、終身会費2万円を納入していただきたく別紙払込取扱票を同封させていただいております。

趣旨をご理解の上、会員の皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

なお会費の管理には万全を期しておりますが、行き違いにより万一納入済の方に納付用紙が同封されておりましたら悪しからずご了承の上、事務局宛ご連絡下さい。

(事務局、埼玉大学経済学部内・TEL048 858 3281、担当 平野)

窓口は埼玉大学学生部厚生課、就職相談室・TEL048 858 3767 FAX048 858 382です。

人生の原点

昭和三十四年四月、第一志望校に失敗し、まだ諦め切れずに、どうせ仮の宿だからぐらゐの気持ちでやってきた蒼玄寮だったが、すぐさまその魅力にとりつかれて、多感な青春の四歳を過ごすことになり、自分にとって掛け替えのない心の宿となったのである。

入寮後、まもなく行われた「新入寮生歓迎コンパ」で、最後に先輩達とスクラムを組み、「起て、飢えたる者よ...」、「ふるさとの街焼かれ...」などと、わけもわからず大声で歌ったとき、何故かそれまでのうつうつとした気分が吹き飛ばされていったのだ。そのとき、何かわかんないが受験勉強ではなく、やらなければならないことが沢山あるように思えたのである。

この歌は一体何だろう。今まで口ずさんできた流行歌とはまるで異質のものだった。東京

大空襲に焼け出され、その後の極貧生活に麻痺していたのだろ、うか、腸に染み通る歌だった。貧困から脱却するために、唯

漠然と大学を出て、寄らば大樹の陰ぐらゐに考えていた頭を、ガツンと一発食らわされた気がしたのだった。所謂カルチャーショックを受けたのである。これを契機に、自分の頭で考え行動する、自由な時間が始まった。友人の輪を広げ、先輩との交流を通じて、人生をどう生きるか自分なりに思索しはじめたように思う。まず現実の社会を直視しなければならぬと気が付かされたのだ。折しも安保闘争が起こり、この世の中どうなっているのだらうと深く考えさせられたのもこの時期だった。机上の勉学が現実と結びつきだしたのだ。具体的な活動までには至らなかったが、日々心の中の葛藤は続いた。少なくとも自分は、何がしか社会の一隅を照らす存在にならなければならぬと、大望を抱き夢を膨らませたものだった。(これは未だに夢のままだが...) いずれにせよ、この蒼玄寮で受けた教訓、味わった経験が、青二才の人生の原点になったことは確かである。

わが青春の蒼玄寮

「わが心の宿」

昭和38年卒

現在、小・中・高生を指導する立場にあつて、単なる勉強の為の勉強に終わらせないよう留意している所以である。

野球部生活の満足

一方、将来社会で活躍するには健康が大事などと理由付けて、大好きな野球をやりたいと硬式野球部に入部した。中学時代も野球部だったが、硬球を握ったことはなく、下手の横好きなだけで、先輩達を手古摺らせたものだった。辞めようと思う苦しい時もあったが、自分としては大いに満足できた野球部生活だった。今でも健康でいられるのはこのお陰かと思う。

クラブやバットは自分持ちという貧しい部活動だったので、春夏の合宿は蒼玄寮を利用してもらったのだが、一日百円の食費は大変助かったものである。米七分麦三分ぐらいの、それでも麦の方が多く感じられ

懐しく思い出される。結局、学生も一地域住民として、社会に目を向けていかなければならないという視点を重視することにした。

その一つとして、安保闘争で犠牲になった東大生榊美智子さんの父上榊俊雄先生(当時中央大学法学部教授)をお招きして、時局講演を開催した。タイムリーだったのか多数の参加を得て好評を博したと記憶している。二つ目は、普段学生の甘えから大騒ぎしたり何かと近隣住民に迷惑をかけていると思い、市民との交流を図る企画をした。寮を解放して、日頃の寮生活を覗いてもらい理解を深めてもらうことと、市中パレードを行ったことである。

各部屋毎にそれぞれ趣向を凝らし展示や実演、軽食喫茶など各催し事(所謂文化祭のミニ版)を行った。近隣の子供達に大変受けた。また市中パレードでは、小型トラックをオープンカー

谷中 續

一仕立てにして先導させ、仮装した学生達が浦和駅前から蒼玄寮まで市内を行進した。特にゴミ屑籠を背負った学生達が道路を清掃して歩いたのは、笑いを誘いつつも人気を呼び市民の理解を得る一助になったと思う。

自己満足だったかもしれないが、寮祭成功の裏には、当時の地域社会に他人の子を叱咤もするが温かい眼で見守る寛大さがあつたからではないかと思える。現在では凡そ考えられないことではないだろうか。

寮祭は悠元寮(女子寮)との共催なので、女子寮も解放され、男子学生にとつては訪ねるのが興味津々だった。準備期間も含めてほぼ二ヶ月に亘る寮祭も、フィナーレはファイヤーストームだ。若者のエネルギーを燃やし尽くし、恋の炎だけを残して幕を閉じた。まずまず大任を果たせて安堵したものだ。

日常生活雑感

日常生活を省みると、十五畳部屋に五人が、仕切りもなく万年床で、天井には衣服や洗濯物がぶら下がり

押入れに机を持ち込んで、辛うじて各自自分の場所を確保するといった有様だった。

野球とバイトに明け暮れ、夜中に面子が揃うと雀卓(リング箱の上)に板を載せ毛布を被せた)を囲み、夜鳴きソバ屋のチャルメラが鳴ると、一杯三十円の支那ソバが楽しみだった。誰かに酒が手に入ると、どこからともなく聞きつけて人が集まり、談論風発大酒盛が始まる。さながら不夜城と化すのであった。それでも休日の天気の良い日には、拳つて洗濯(手洗い)に精を出し、外から眺めると各部屋の窓が布団や洗濯物で満艦飾になる。この風景は非常に健全な生活感を感じさせ心地よかつた

「囲碁部OB会に想う」

埼玉大学囲碁部OB会会長 竹政 新吾

ものである。やはりみんな地に足が着いた過ごし方をしているなと感じたものだ。ある時は久しぶりに訪ねてこられたOBに寝床を先に占領されたが、経済的ピンチには食券を借りて凌げる利点もあった。こうした自由奔放な生活の中で、個性ある先輩や同後輩に刺激を受け成長してきた四年間であった。

かくして自分にとっては、寮生活が社会に目を向ける礎を築けた期間であり、蒼玄寮はそれからの人生の原点ともいえる心の宿になったといえよう。

みなさんお達者だろつか、懐旧の念が止めどなく込み上げてくる。

大学を卒業して、すでに三十有余年が過ぎてしまった。

我々の年代は、高度成長時代の担い手として、気力と責任感とまじめさで一生涯懸命働いてきた。気が付いてみたら経済は落ち込み、リストラの標的となつていて、健康保険の個人負担も4月から3割になり、年金の支給も減らされる可能性が高い。お金の原理により、拘束され、制約され、気を使いつつと我慢してきた年代である。

しかし、自分や家族の生活を維持するために、仕方ないことであつた。人によつて様々だと思つたが、会社での付き合いは退職をしようとするとならぬに親しい間柄でも、時間がたつにつれ希薄になっていく。競争相手でもあり少ないパイを取り合つていた同志ということもある。

私は現在20名弱の小さなソフトウエア会社を経営している。中小企業の社長というものは、受注から始まって、採用、教育、資金繰り、経理、給与、決算、官公庁等ありとあらゆるものを一人でこなさなければ成らない。

外部環境の変化や内部の人員の变化など、いつも気が休まる時がない。常に孤独であり、全て上手くや

らねばならないと言つて気持ちがある。才能のある経営者なら良いのである。人間一人と言つても、弱いものである。でも、やらなければならぬ。今年も3月、静岡県湯河原「杉の宿」で埼玉大学囲碁部OB会が開催された。OB会が始まったのはいつのことか覚えていないが、すでに15年以上経つていてと思う。

毎年十数名、集まつて囲碁を楽しんでいる。皆、囲碁をこよなく愛し、其の難しさ、深さを追求し、またより強くなりたいと思つている。

埼玉大学囲碁部は、確か昭和41年に始まつたと思う。毎年合宿に行つた。どんな風光明媚なところでも、全く関係なく、ただひたすら碁を打つていた。其のころの同級生や先輩や後輩や、今では其のこだわりもなくなつた。懐かしい仲間と今現在、碁を打つていくことは、人生において、幸せの限りである。

今後、皆が定年になつても、囲碁部OB会は続いていくと思つた。この楽しい仲間を与えてくれた、埼玉大学に感謝したい。

東京コンピュータシステム(株) 社長 昭和44年卒 経済学部経営学科

編集後記

会報も号を重ねること6回目、われながらワンパターンに陥つていて反省することしきりである。一人でやっているとどうしてもマンネリ化が避けられないのと、この時期に短期間に編集を済ませてしまおうとする「片手間仕事」が原因で、これではイケナイと思う。

先日の理事会で問題提起し、理事の皆さんから色々な意見をいただいた。それらを踏まえて、広報委員会を立ち上げ、何人かのメンバーの知恵と共同作業により内容を充実したいと考えている。

考えてみれば会員とのコミュニケーションは総会(出席すればの話だが)と会報、および昨年開設のホームページしかない訳で、これらをもっともつと充実しなければならぬ。会員の皆さんからの情報、寄稿、ご意見、アイディアなどもお寄せいただき、もっとパラエティに富んだ紙面にしたいと考えているので是非ともご協力いただきたい。